

ハイチ救援活動テーマに

AMDA・菅波代表が講演



県立大「災害セミナー」

国際医療支援での信頼関係について語る菅波代表
—北区の岡山国際交流センターで

国際医療救援団体「AMDA」(本部・北区)の協力による県立大の公開講座「災害セミナー」が25日、北区奉還町2の岡山国際交流センターであり、菅波茂・AMDAグループ代表が今年1月に発生したハイチ大地震救援活動などをテーマに講演した。

菅波代表は1月のハイチ大地震などを例に援助を受ける被災者の気持ちについて話した。菅波代表は「助けられる側は『なぜ助けているのか』と疑問を持っている。後で高額な請求をされる場合もあり、説明のない親切は受け入れられない」と指摘。AMDAは相互扶助をモットーに活動しているが「困った時はお互い様」という考え方は国際社会では一般的でないという。

実例として、第世界大戦後の対日請求の放棄など歴経緯を支援理由のとして説明し、相手を理解してもらったことを紹介した。ハイチの子供とサーで交流したこと「決して見放さない、と伝えるが一番重要」と強調した。

同研究科1年の小百合さん(23)は謝の気持ちを自分伝え、人の信頼を伝える一人前の人間になりたいと思った。【石川勝